

令和 元 年

# 北 海 道 特 用 林 産 統 計

令和 3 年 1 月

北 海 道

# 目 次

## ● 〈概要編〉

I	国内の主な特用林産物の生産動向	1
II	北海道の主な特用林産物の生産動向	
1	きのこ類	2
2	木炭・木酢液	3
3	薪	4
4	山菜類	4

## ● 〈資料編〉

I	特用林産物全般	
1	主要特用林産物生産量及び生産額の推移	5
2	主要特用林産物の都道府県別生産順位	6
3	主要特用林産物生産量の推移（全国対比）	7
4	特用林産物生産額の推移（全国対比）	8
5	主要特用林産物生産者数の推移	8
II	きのこ類	
1	生しいたけの月別生産量	
	（1）原木栽培	9
	（2）菌床栽培	9
	（3）生しいたけ合計	9
2	生しいたけ生産量における原木栽培と菌床栽培の割合の推移	9
3	生しいたけ生産規模別生産者数の推移	9
4	生しいたけ生産者の職業別内訳の推移	
	（1）原木栽培	10
	（2）菌床栽培	10
	（3）生しいたけ合計	10
5	しいたけ原木の調達ルート	10
6	しいたけ原木価格の推移	10
7	しいたけ原木伏込量の推移	11
8	菌床製造用おが粉の調達ルート	11
9	しいたけ菌床ブロック等の調達の推移	11
10	主なきのこ類の出荷先内訳	11
11	道内主要市場における主なきのこ類の産地別入荷動向の推移	12
12	一世帯当たりきのこ消費量の推移（二人以上の世帯）	12
III	木炭等	
1	木炭等用途別生産量の推移	13
2	木炭等品目別生産者数及び窯数の推移	13
3	木炭輸入量の推移	13
4	その他木炭等の生産量の推移	13
IV	山菜類、その他	
1	山菜類生産量の推移	14
2	道内主要市場における主な山菜類の産地別入荷動向の推移	14
3	その他の特用林産物の生産量の推移	14

V 令和元年主な特用林産物の市町村別生産量

1	きのこ総計	15
2	乾しいたけ	15
3	生しいたけ	16
4	なめこ	16
5	えのきたけ	17
6	まいたけ	17
7	乾きくらげ	18
8	生きくらげ	18
9	木炭（黒炭）	19
10	粉炭	19
11	木酢液	20
12	薪	20
13	ねまがりたけ	21
14	わらび	21
15	ふき	22
16	うど	22
17	ギョウジャニンニク	23
18	こごみ	23
19	その他の山菜	24

VI 令和元年主な特用林産物の振興局別生産量 25

＜特用林産物とは、＞  
 主として山林原野において産出されてきた産物で、きのこ類、山菜類、薬用植物、果実類、樹脂類、木炭、薪及び桐など、一般用材以外のものをいいます。

（注）

平成30年からの統計調査結果より、調査対象者数が2以下の場合には、個人又は法人その他の団体に関する調査結果の秘密保護の観点から、当該結果を「X」表示とする秘匿措置を施しています。

なお、全体（計）から差し引きにより、秘匿措置を施した当該結果が推定できる場合は、本来秘匿措置を施す必要のない箇所についても「X」表示しています。

林野庁作成の令和元年特用林産基礎資料（特用林産生産統計調査 結果報告書）と同様の取り扱いとしています。

## <概要編>

### I 国内の主な特用林産物の生産動向

#### 1 きのご類

令和元年のきのご類生産量は 456,437 トン(前年比 97.5%)で前年より減少している。

品目別では、「生しいたけ」「なめこ」「まいたけ」「きくらげ」は増加しているものの、他の全ての品目で減少している。品目別の生産量は、最も多い「えのきたけ」が 129,104 トン、以下、「ぶなしめじ」が 118,597 トン、「生しいたけ」が 71,112 トン、「まいたけ」が 51,146 トン、「エリンギ」が 37,635 トン、「なめこ」が 23,857 トン、「きくらげ類」が 2,315 トン、「その他のきのご」が 18,809 トンとなっている。

都道府県別では、長野県、新潟県、福岡県、北海道、宮崎県、大分県がきのご類の主産地となっている。

#### 2 木炭等

令和元年の木炭(白炭と黒炭)生産量は、8,390 トン(前年比 96.0%)で、前年より減少している。

品目別では、「白炭」、「粉炭」、が前年より増加しているが、「黒炭」、「木酢液」は減少している。

品目別の生産量は、最も多い「粉炭」が 6,016 トン、「黒炭」が 5,232 トン、「白炭」が 3,157 トン、「木酢液」が 2,102 キロリットルとなっている。

都道府県別では、「木炭(白炭と黒炭)」が岩手県、高知県、和歌山県、北海道、熊本県、「粉炭」が島根県、奈良県、岐阜県、長野県、宮崎県、「木酢液」は岩手県、宮崎県、静岡県、熊本県、福島県、が主産地となっている。

#### 3 山菜類

山菜類の生産量は、天候に左右されやすく、品目によって増減にバラツキがあるという特徴があり、「たけのこ」と「ふき」が大部分を占めている。

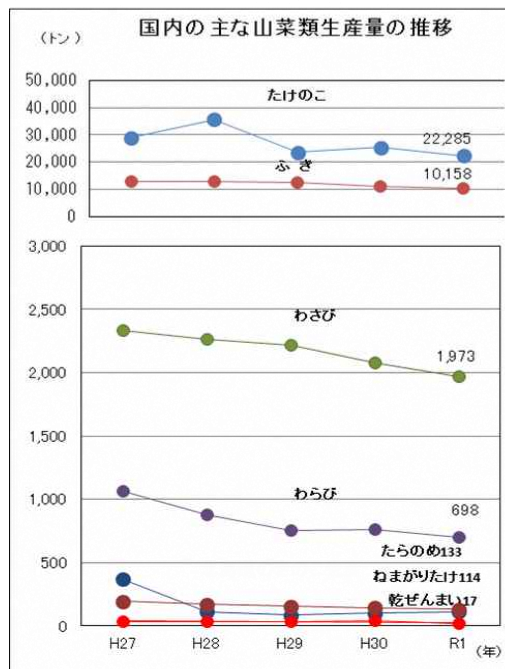
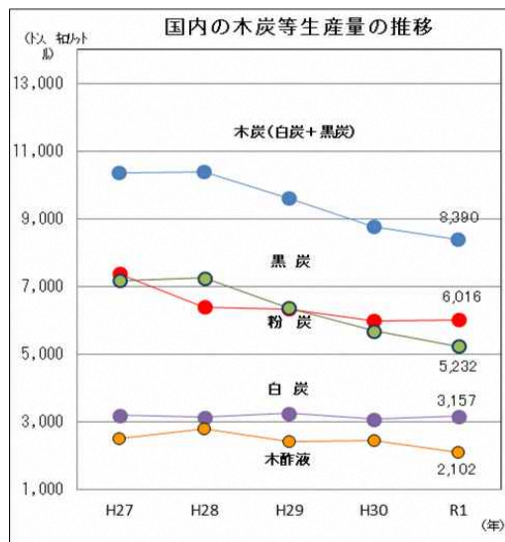
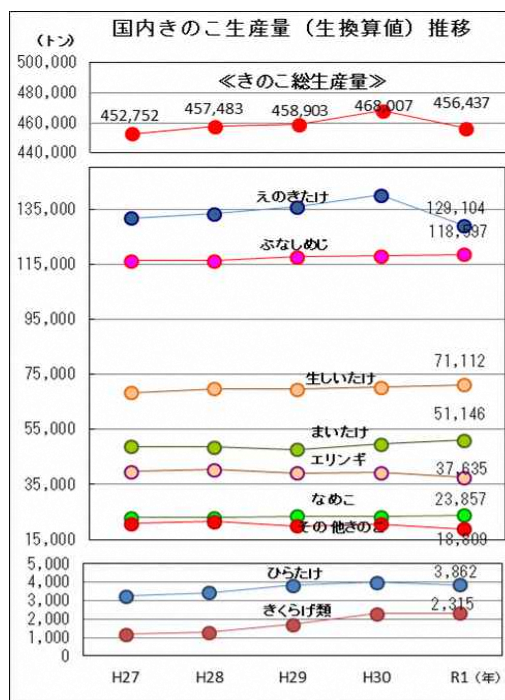
令和元年の品目別の生産量は、「たけのこ」が 22,285 トン(前年比 87.9%)で前年よりも 3,079 トン減少している。

その他は、「ふき」が 10,158 トン、「わさび」が 1,973 トン、「わらび」が 698 トン、「たらのめ」が 133 トン、「ねまがりたけ」が 114 トン、「乾ぜんまい」が 17 トンとなっている。

都道府県別では、福岡県、鹿児島県、愛知県、熊本県、京都府が山菜の主産地となっている。

#### 4 その他

上記のほか、全国各地で「くり」、「くるみ」、「竹材」、「桐材」、「薬草類」などの特用林産物が生産されている。



## II 北海道の主な特用林産物の生産動向

### 1 きのご類

北海道では、「生しいたけ」のほか、「えのきたけ」、「ぶなしめじ」、「まいたけ」、「なめこ」などのきのこが各地で生産されており、令和元年のきのこ類の都道府県順位は、長野県、新潟県、福岡県に次ぐ全国第4位に位置し、全国でも有数のきのこ生産地となっている。

品目別では、「たもぎたけ」が全国第1位、「生しいたけ」、「きくらげ類」が同第2位、「なめこ」及び「まいたけ」が同第5位となっている。

#### (1) 生産量

令和元年のきのこ類生産量(生換算値)は17,622トン(前年比94.6%)で、前年よりも997トン減少している。

品目別では、「乾しいたけ」、「生しいたけ」、「えのきたけ」、「なめこ」、「きくらげ類」は前年よりも減少している。

「たもぎたけ」、「ぶなしめじ」、は前年並みで、「まいたけ」が前年より増加している。

地域別では、胆振、上川、空知、石狩地域が主産地となっており、この4地域で道内生産量の91.6%を占めている。なお、「生しいたけ」の生産量は、97.3%が菌床栽培となっている。

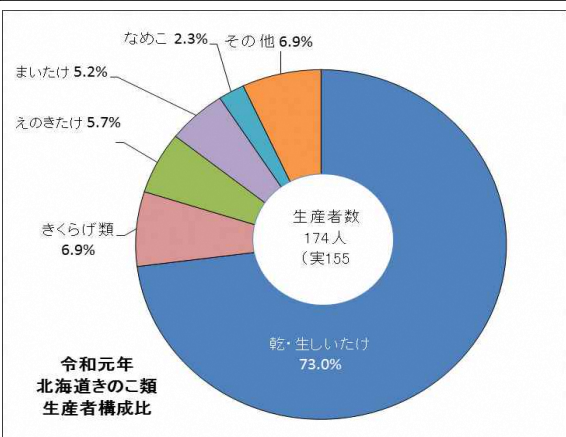
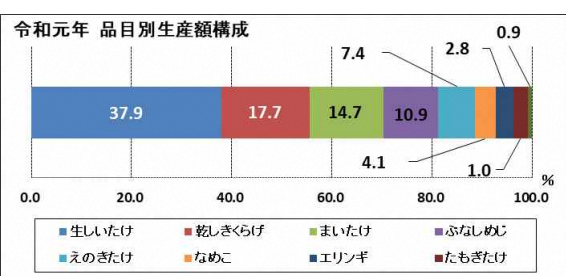
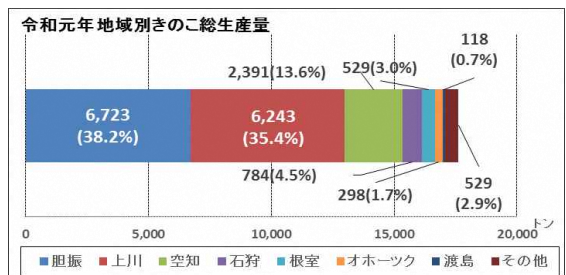
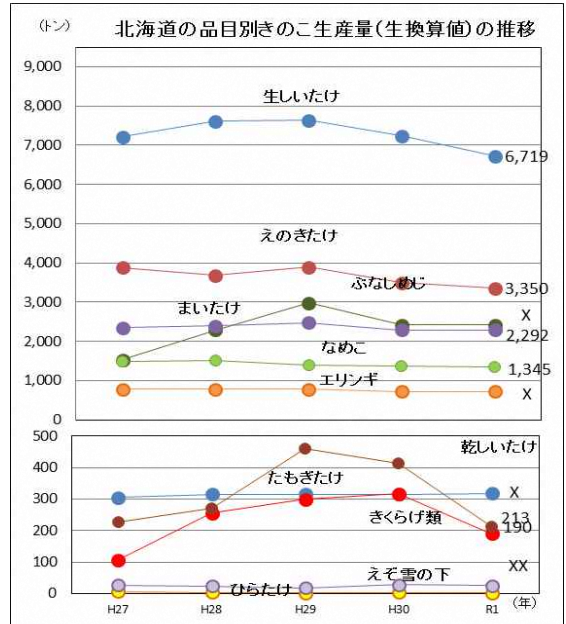
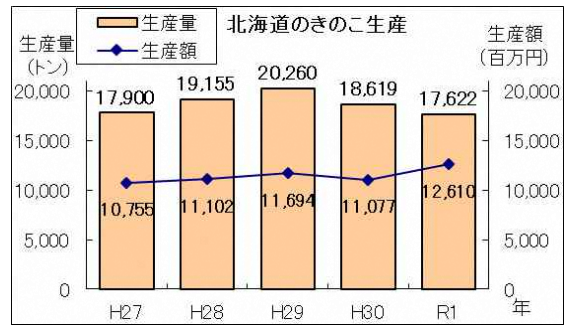
#### (2) 生産額

令和元年のきのこ類生産額(推計値)は約126億円(前年比113.8%)で、前年よりも約15億3千万円増加している。これは令和元年から、きくらげ類の22億2千万円を加算したことが要因である。(前年まで生産額のデータなし)品目別では、「まいたけ」は約8千百万円(前年比104.6%)「たもぎたけ」は約2千6百万円(前年比107.8%)、増加したが、「生しいたけ」は約5億5百万円(前年比90.4%)、「乾しいたけ」は約1億3千6百万円(前年比44.4%)、「ぶなしめじ」は約1億1千百万円(前年比92.5%)、と「えのきたけ」は約6千4百万円(前年比93.5%)、「エリンギ」は約2千5百万円(前年比94.5%)「なめこ」は約2千4百万円(前年比95.5%)と前年より減少している。

また、生産額全体に占める割合を品目別で見ると、「生しいたけ」が37.9%、「乾しきくらげ」が17.7%、「まいたけ」が14.7%、「ぶなしめじ」が10.9%、この4品目で全体の81.2%を占めている。

#### (3) 生産者数

令和元年のきのこ類の延生産者数は、174人と前年よりも14人減少し、実生産者数も155人と前年より11人減少している。品目別の延生産者数に占める割合は、「乾・生しいたけ」が127人(原木栽培49人、菌床栽培78人)で73.0%、以下、「きくらげ類」が12人で6.9%、「えのきたけ」が10人で5.7%、「まいたけ」が9人で5.7%、「なめこ」が4人で2.3%となっている。





## 2 木炭・木酢液

北海道では、古くから木炭(白炭と黒炭)が燃料用として各地で生産されてきたが、「白炭」は平成 22 年以降生産されていない。

令和元年の木炭(白炭と黒炭)生産量の都道府県別順位では、岩手県、高知県、和歌山県に次ぐ全国第 4 位に位置し、全国でも有数の木炭生産地となっている。なお、「黒炭」の生産量は岩手県に次いで全国 2 位となっている。

また、木炭以外では、主に農業用(土壌改良等)に利用される「粉炭」や、農業・家庭園芸用(土壌改良や植物活性等)のほか入浴剤など多方面で用途が広がっている「木酢液」も生産されている。

### (1) 生産量

#### 〈木炭(黒炭)〉

令和元年の木炭生産量は 837 トン(前年比 83.2%)で、前年よりも 63 トン減少している。

地域別では、釧路、十勝、渡島地域が主産地で、この 3 地域で全道生産量の 91.1%を占めている。

#### 〈粉炭〉

令和元年の粉炭生産量は 393 トン(前年比 135.5%)で、前年より 79 トン減少している。

地域別では、上川、十勝地域が主産地となっている。

#### 〈木酢液〉

令和元年の木酢液生産量は 52 キロリットル(前年比 139.1%)で、前年より 15 キロリットル増加している。

地域別では、胆振、十勝、上川地域が主産地となっている。

### (2) 生産額

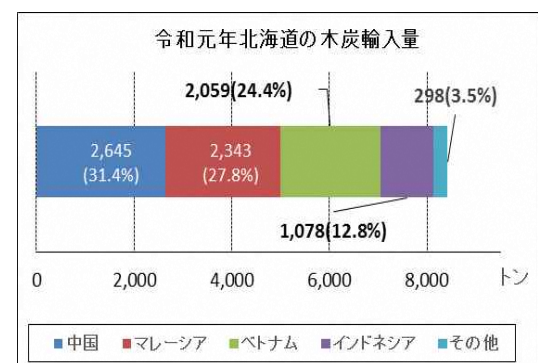
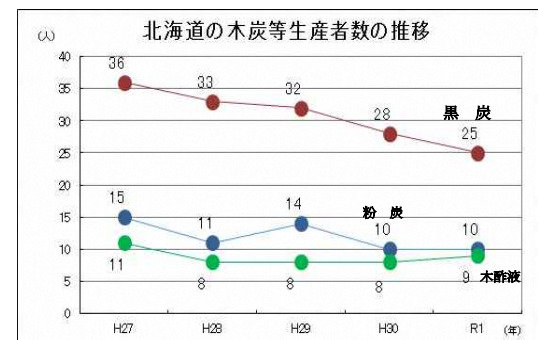
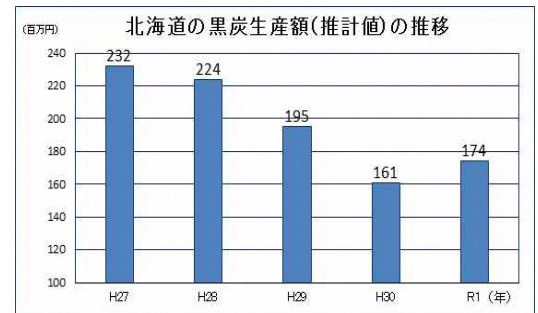
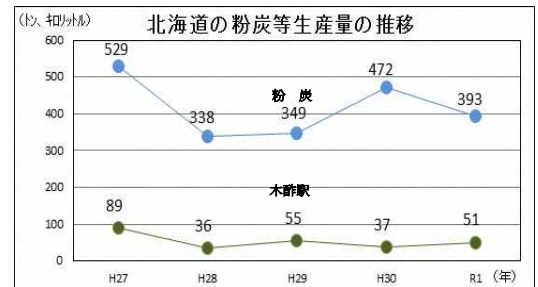
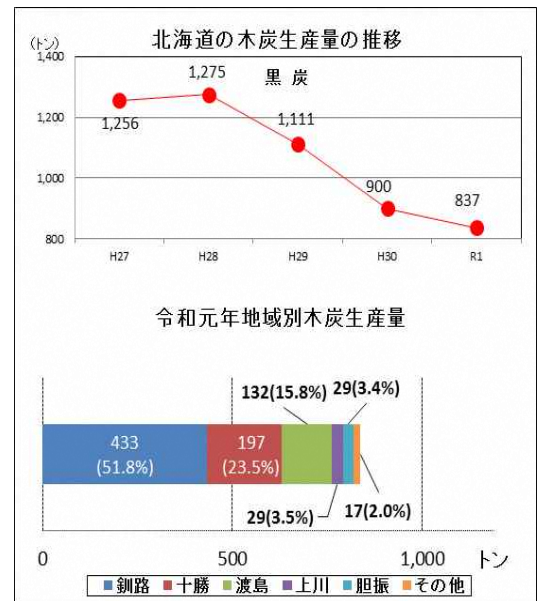
令和元年の木炭生産額は約 1 億 7 千 4 百万円(前年比 108.1%)で、前年より 1 千 3 百万円増加している。

### (3) 生産者数

令和元年の木炭等生産者数は、木炭(黒炭)が 25 人で前年より 3 人減少、「粉炭」は 10 人で同数、「木酢液」は 9 人でと 1 人増となっている。

### (4) 木炭の輸入

令和元年の木炭輸入量は 8,423 トン(前年比 108%)で、前年より 621 トン増加している。輸入量の国別割合は、中国が 2,645 トンで 31.4%と最も多く、マレーシアが 2,343 トンで 27.8%、次いでベトナムが 2,059 トンで 24.4%、インドネシアが 1,078 トンで 12.8%、となっている。



### 3 薪

薪は、再生可能な木質資源で、大気中の二酸化炭素を増やさないカーボンニュートラルな燃料として近年注目が集まり、燃焼効率が良く排気ガスもきれいな薪ストーブの開発なども進み、個人住宅等で薪利用の気運が高まっている。

#### (1) 生産量

令和元年の薪生産量は、10,872 立方メートル(前年比 85.7%)で、前年より 1,819 立方メートル減少している。

地域別では、十勝、後志、胆振、釧路、石狩、上川地域が主産地となっている。

#### (2) 生産者数

令和元年の生産者数は 49 人(前年比 102%)と前年より 1 人増加している。

### 4 山菜類

北海道で生産される山菜類は天然物の採取が主体で、全国的には盛んに行われている人工栽培の割合が低いため、天候の影響により生産量が大きく左右されるという特徴がある。

北海道で生産されている主な山菜は、「ふき」、「うど」、「ねまがりたけ」、「わらび」で、その他、「ギョウジャニンニク」、「たらのめ」、「こごみ」なども生産されている。

このうち、「ふき」、「うど」、「ギョウジャニンニク」「たらのめ」は、一部人工栽培が行われている。

#### (1) 生産量

令和元年の主な山菜類生産量は 798 トン(前年比 117.0%)で、前年より 116 トン増加しており、生産量の 92%を占めている「ふき」の増加が大きく影響している。

品目別では「ふき」が 736 トン(前年比 120.9%)、「ねまがりたけ」は 7 トン(前年比 121.5%)と増加したが、「うど」が 44 トン(前年比 79.7%)、「わらび」が 8 トン(前年比 88.8%)と前年より減少している。

地域別では、「ふき」は十勝、オホーツク、空知、根室地域、「うど」は渡島、空知、オホーツク地域が主産地となっている。

#### (2) 生産額

令和元年の主な山菜類の生産額(推計値)は、約 2 億 2 千 1 百万円(前年比 121.0%)で、前年より 3 千 8 百万円増加している。

#### (3) 生産者数等

令和元年の主な山菜類の実生産者数は 16 人で、前年と同数となっている。

